

同志社大学

2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 2月 15日提出

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|---------------------|--|-------|
| 生命医科学部 | 教授 | 米井 嘉一 |
| 研 究 題 目 | 睡眠の質が生活習慣病におよぼす影響に関する調査 | |
| 研 究 成 果 の 概 要 | <p>成果概略</p> <p>【目的】メラトニンの尿中代謝物である 6-ヒドロキシメラトニンサルフェート (6-hydroxy-melatonin sulfate: SaMT) を睡眠の質の指標として、アンチエイジング検診により測定された身体機能年齢及び生活習慣との関連を検討した。</p> <p>【方法】先行研究「有隣研究(京都市)」により歩行運動を行っていた運動禁忌のない高齢者の 25 名(男性 14 名、女性 11 名、73.2±6.5 歳)を対象とした。アンチエイジング検診による身体の機能年齢を Age Management Check R (銀河工房)を用いて評価し、夜間蓄尿中 SaMT 排出量を ELISA 法にて測定、男女合計及び男女別に SaMT 排出量との相関解析を行った。</p> <p>【結果】単相関解析で SaMT 排出量と有意に相関が得られたのは、男女合計ではホルモン年齢($r = 0.479$, $p = 0.028$)、ホルモン年齢 gap ($r = 0.533$, $p = 0.013$)、飲酒量($r = 0.600$, $p = 0.004$)。男性ではホルモン年齢($r = 0.652$, $p = 0.030$)、飲酒量($r = 0.789$, $p = 0.004$)、女性では血管年齢 gap ($r = 0.769$, $p = 0.009$)であった。但し gap とは機能年齢と実年齢の差と定義した。ロジスティック解析では尿中 SaMT 排泄量と有意相関をもつ身体情報はなかった。</p> <p>【結論】今回の試験的検討では、尿中 SaMT 排泄量を指標としたメラトニン分泌量と身体機能年齢を含む身体情報との間に明確な関連性は見いだせなかった。症例数を重ねた今後の検討を要する。</p> <p>成果論文</p> <ol style="list-style-type: none">1) Kawamoto T, Takabe W, Maruyama Y, Hattori A, Yonei Y. Relationships between urinary melatonin metabolites and glycative stress and body functional age. Glycative Stress Research 3(1): 15-22, 2016.2) Moniruzzaman M, Takabe W, Yonei Y. Melatonin is not a carbonyl scavenger. Glycative Stress Research 3(1): 1-4, 2016. | |